

平成28年度第2回農業大学校外部評価委員会 議事録

I 日時 平成29年2月20日(月) 10:00~12:00

II 場所 大分県立農業大学校 会議室

III 参加者 外部評価委員

教育関係者	大分県高等学校教育研究会農業部会長 (大分東高等学校長)	田中 豊彦 氏
生産者	大分県指導農業士会長	藤野 渉 氏
〃	大分県農業法人協会会長	増田 徳義 氏
〃	地元女性農業者	古庄 京子 氏
卒業生	大分県立農業大学校同窓会副会長	湯浅 正徳 氏
農業団体	大分県農業協同組合常務(営農担当)	坂本 茂則 氏
行政	豊後大野市農業振興課長	左右知新一 氏
行政	大分県中部振興局生産流通部長	三浦 敏郎 氏

農業大学校

校長、副校長、次長、農学部長、研修部長、教務課担当

IV 次第

1 開会 (進行: 渡辺次長)

2 あいさつ

(1) 校長あいさつ

農業大学校は大分県の農業・農村振興を担う人材を育成するという大きな使命を担っています。その中で農業大学校の取り組みについて皆さんにお諮りして、今後の農業大学校のあるべき姿についてご議論いただければ大変有り難く思います。本日はよろしくお願ひします。

(2) 田中委員長あいさつ

これから大学校側から大きな3点の目標の取り組みについて説明がございます。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきながら厳正な評価をしていただきたいと思います。

3 議事(議長: 田中委員長)

(1) 平成28年度重点目標の取組状況及び評価について

運営方針1「活気あふれる学園づくり」

【数値目標】基礎学力を備えた入学生の確保: 60名について校長より説明

《質疑・応答》

(三浦委員)

・2次募集では毎年何人程度の受験希望者がいるのか。

(大学校)

・昨年度の受験者はいませんでした。毎年2~6名程度の受験者があります。

(坂本委員)

・今年度これまでの入学試験の合格者の中で辞退者があったとあるが、どういった理由か。

(大学校)

・社会人の受験生で、合格はしたが仕事の都合で入学できないとのこと。

(左右知委員)

- ・今回の入学試験で豊後大野市出身の合格者は何名か。

(大学校)

- ・推薦入学試験で2名、一般入学試験で1名の合計3名の合格者がいる。
- ・大分県内で本格的に農業について学ぶ場所は本校しかない。そういった情報が県内の高校の生徒や保護者に理解されていない。農業大学校の魅力についてもっとアピールし、定員60名を確保できるよう努めて行きたい。

(田中委員長)

- ・来年度は13名の女子学生が入学するが、全学生で女子学生が何名となるのか。

(大学校)

- ・来年度、2学年合わせて29名となる約3分の1が女子学生となるため、以前利用していた寮を改装し女子学生の増加に対応する。今年は1年の女子学生は2人1部屋であったが来年度は1人1部屋となる予定。

(田中委員長)

- ・県内の農業系高校では女子学生が増え始め、これからも農業大学校を希望する女子生徒が増える状況にある。そういった中で女子寮の整備はありがたく女子生徒へのアピールにつながる。

(田中委員長)

- ・そのほかの意見について確認。(特になし)重点目標1の「活気あふれる学園づくり」基礎学力を備えた入学生の確保：60名については、大学校の自己評価は「2の目標をほぼ達成」であるが、委員評価としても同評価と考えるがいかがでしょうか。

(全員了承)

運営方針2「質の高い教育の提供」

【数値目標】全国大会出場最低1名1課題以上。日本農業技術検定3級以上取得者80%以上について校長より説明

(湯浅委員)

- ・学生が多く資格取得に取り組んでいるが、こういった資格にどのくらいの割合で合格しているのか教えてほしい。

(大学校)

- ・就農後必要な資格については、合格できるよう放課後の補講や個別指導等行っている。

(藤野委員)

- ・大型特殊やけん引の免許を多くの学生が取得しているようだが、その資格を持っている学生がどのくらい日頃の実習の中で活用されているのか。

(大学校)

- ・1年では農業機械士の実習で基礎的なトラクター運転や整備の仕方やロータリーの扱い方について学び、2年の農業機械応用実習では更に動機や耕耘機などの機械操作についても学んでいる。しかし今年度は新たに就農した際に必要な機械を限定して時間をかけ研修できるように見直して行きます。
- ・畜産の学生については機械を扱うことが多く、就職後即戦力としてその技術が役立つと思われる。

(古庄委員)

- ・2月の日本農業新聞に大分県農業青年プロジェクト実績発表大会の記事が出ていたが、将来就農を促すために学生も参加させたらどうか。

(大学校)

- ・ 昨年は1年の学生を参加させたが今年は講義の関係上参加できなかった。
- ・ 農業高校でもプロジェクト発表会を実施しており大変良い発表していた。機会があれば本校の指導職員にも参加させたい。

(田中委員長)

- ・ そのほかの意見について確認。(特になし) 重点目標2については、大学校の自己評価は「3の目標を未達成」とあるがヤンマーの懸賞論文では金賞及び2名の銅賞の入賞や、フラワーデザインでは多くの学生が入賞しているがどうでしょうか。

(古庄委員)

- ・ 資格取得では前年度に比べ倍以上の合格者がおり努力の跡もみえるので、「2の目標をほぼ達成」でよいのではないか

(田中委員長)

- ・ 古庄委員より意見があったが、特定の事に対し目標が達成できていなかったが、農業技術検定では努力と成果の跡がみられる。「2の目標をほぼ達成」でどうでしょうか。
(全員了承)

運営方針3「新規就農者の確保」

【数値目標】全学生・研修生の進路決定、就農率80%以上の確保について校長より説明

(藤野委員)

- ・ 資料にある進路状況にある就農の内訳にある兼業とはどういった項目か。

(大学校)

- ・ 農林水産省の調査の中で、自宅から会社に勤めながらも農業を行う学生に対しても就農と位置付けるといった基準により4名が対象となった。

(増田委員)

- ・ 研修とはどういった内容か。

(大学校)

- ・ 香川県の小豆島でオリーブ栽培の研修を行い、いずれ地元である国東市に戻りオリーブ栽培を行う予定。

(左右知委員)

- ・ 今、学生の中で青年就農給付金の受給者は何名ぐらいいるのか。また、今回就農する学生の中で受給している学生がいるのか。

(大学校)

- ・ 10名程度の学生が給付をしており、就農する学生の中にも受給者がいる。1年生でも就農を考えている学生もおおり数名申請している状況にある。
- ・ 学生募集の資料にもあるように授業料や諸経費が青年就農給付金でほぼ賄えることもあり、経済的事情で進学諦めている生徒もいるとの情報もあり、委員の皆さんにも多方面でアピールしていただき活用してもらいたい。

(田中委員長)

- ・ そのほかの意見について確認。(特になし) 運営方針3の「新規就農の確保」全学生・研修生の進路決定、就農率80%以上の確保については、大学校の自己評価は「2の目標ほぼ達成」でしたが「1の完全に達成」で良いのではと思いますがいかがでしょうか。

(全員了承)

(田中委員長)

- ・ 3点の運営方針について評価は終わったが、全般的に何か質問等あれば出して下さい。

(増田委員)

- ・ 農業法人就職する学生が多く就農率が高くなっているが、就職後の追跡調査を行って

ほしい。就職させてそのままではなく、学生や企業に聴き取りをする中で、卒業生がどういった状態なのか、また農業法人ではどういった学生が欲しいのか調査しそれを在学生の進路指導に活かしてほしい。

(大学校)

- ・本校では夏休み期間中に指導職員の先生に手分けをし、過去3年間の学生の就職先に出向き、定着状況や学生の状況について調査している。内容についても学生の進路指導の中で役立てている。

(田中委員長)

- ・以前から継続している内容なので、そういった内容について次回の外部評価委員会で公表してほしい。

(藤野委員)

- ・先進農家研修の受け入れをしているが、学生は最初の1週間は要領を掴めず作業があまりできないが、2週目になり次第に要領を覚え作業もスムーズできるようになる。以外にも女子学生の方が要領がよい。

(大学校)

- ・農家研修を受け入れていただいた農家の方には大変感謝をしている。本当の農業を肌で感じることができる貴重な体験であるため、今後もお願いしたい。

(2) 平成29年度魅力ある農大の実現に向けた取組概要

(大学校)

- ・本校では大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」の第3章 農林水産業・農山漁村の展開の方向として、農業大学校などでの人材の育成を頂点に、農業大学校の取り組みとしては試験研究機関との連携を行い、地域課題の解決に直結したプロジェクト研究を行うなど、担い手の育成と地域から信頼される農業大学校として努めていきたい。

(増田委員)

- ・農業技術の発展が著しい中、予算の関係もあるが最先端の技術を取り入れ、学生への指導を行って欲しい。

(大学校)

- ・予算の問題もあり新技術の導入は厳しい状況にある。今後も継続して要求はして行く。

(左右知委員)

- ・豊後大野市内にある三重総合高校より、大分市内にある大分東高校の入学生が多い。これは認定農業者の後継者が育っていない状況と似ている。親元就農対策の支援を行っているが解決にはいたらず、担い手育成にむけ農業大学校と連携し後継者育成に取り組みたい。

(3) その他

(大学校)

- ・平成28年度学生・保護者・指導職員アンケート結果説明
- ・次年度も引き続き、外部評価委員として継続していただくことを校長より依頼。

(田中委員長)

- ・議事終了と進行協力へのお礼。議事内容等については、ホームページ等で公表することを確認。

4 閉会